



廃虚の中から「希望」が見える。

イタリア中部の古都  
突然すべてを失っても  
人々の暮らしは続く  
愛すること、喜び、哀しみ  
心模様をやさしく繊細に見つめて…

「かぼちゃ大王」の  
フランチェスカ・アルキブジ監督

# 明日、 あした 陽はふたたび



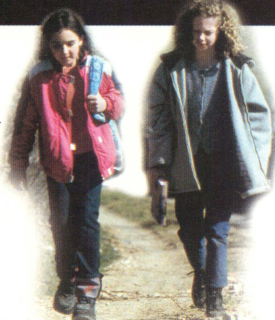
2001年カンヌ映画祭  
正式出品作品

**Domani**  
un film di FRANCESCA ARCHIBUGI



Guido de Laurentis presenta  
un film di Francesca Archibugi "DOMANI"  
prodotto da Cinemello srl e Raicinema con la partecipazione di Tele+  
con Marco Balliani, Valerio Mastandrea, Ornella Muti, Ilaria Occhini,  
Patrizia Piccinini, James Purefoy

Rai Cinema © 2000 Cinemello srl - Rai Cinema



オルネラ・ムーティ、マルコ・バリアーニ、  
デビッド・ブラッチ、ニコロ・センニ、  
マルゲリータ・ボレーナ、ミケーラ・モレッティ  
監督・脚本：フランチェスカ・アルキブジ  
プロデューサー：ガイド・デ・ラウレンティス  
配給：シネマテン  
提供：シネフィル・イマジカ、シネマテン  
協力：イタリア航空  
後援：イタリア大使館、日本におけるイタリア年財団  
日本における  
イタリア  
2001  
2002  
ITALIA IN  
CAMBIO  
2000年イタリアカラー/106分ドルビーデジタル/スコープサイズ

Poster Designed by M. OGASAWARA+S.KANG

# 明日、<sup>あした</sup>陽はふたたび

フランチェスカ・アルキブジ監督

## Domani

そしてあした、太陽がふたたび照りそそぐだろう

そしてぼくの歩む道の途中で、太陽は  
しあわせなぼくたちをまた結びつけるだろう  
この陽光が息づく大地のまっただなかで…

歌曲「あした」より／リヒャルト・シュトラウス作曲  
ジョン・ヘンリー・マッケイ詩／西野茂雄訳

中世のたたずまいを今に残すイタリア・ウンブリア地方の古都を、夜半の地震が揺るがした。美しい建造物がたちならぶカッキアーノ町もその打撃を受け、人々が心のよりどころにしている教会のフラ・アンジェリコ作『受胎告知』の壁画にも大きな傷痕が残される。不自由なテントやキャンピングカーでの避難生活は子どもたちにとってはワクワクするような体験でもあったが、何もかもを失った失意の大人たちには、あらためて自らの生き方を問われる試練の場になった。もろくも崩れた自分の人生とは何だったのか。カッキアーノの住人たちの再生への日々は始まった――。

それでも、人間は素晴らしい。生きることは素晴らしい。

『明日、陽はふたたび』は「かぼちゃ大王」(92)などで知られるイタリア映画界の中心的存在、フランチェスカ・アルキブジ監督の最新作。1997年秋に、イタリア中部、聖フランチェスコで有名な聖地アッシジ周辺で実際に起こった大地震を背景に、生きること、愛することという人間の営みをあたたかくやさしく見つめた珠玉の作品である。



人々の想いが織り込まれたタペストリー

ルネサンス期プレスコ画の傑作、フラ・アンジェリコの『受胎告知』をとりまくように、人々の暮らしがきめ細やかに描写される。副町長パオロ・ゼレンギの家族がいる、すれ違う夫婦と手のかかる息子たち、アゴスティーノとフィリッポ。そして少女たち、ティーナとヴァーレの友情と別れ。思春期の子どもたちのドラマがあり、中学校の女性教師と壁画修復師にめばえる愛がある。失われ、見出されるもの。一人一人の物語が美しく織りなされてゆく。ここには忘れかけている人間の温もりがある。



実話をもとにして丹念に練られた脚本

映画をつくるきっかけは偶然にやってきた。アルキブジ監督は、ある女性教師から地震について書かれた中学生の作文集を見せられた。彼女が最も心を動かされたことは、精神的ショックを抱えている子どもたちが、ただ悲しむだけではなく、生き生きとしていて、明るさにあふれていることだった。人々からほとぼるするこの生きようとする思いはなにか。アルキブジ監督は、ウンブリア地方の町に通って、避難生活を送った人々から数多くの話を聞き、脚本を書いた。



イタリア・ネオレアルリスモの伝統を継承した作風

映画の舞台カッキアーノは架空の町である。撮影は、地震によって破壊され、今は誰もいなくなった町セラーノでおこなわれた。気象の変化などの苛酷な撮影条件、資金の問題など、長期にわたり多くの苦労があったが、ネオレアルリスモの継承と評された本作は、スタッフ、キャストの献身的な努力によって完成された。そのキャスティングはイタリア本国で「最高のもの」と高く評価されている。特に母親を演じる、磁石のような存在感を持つオルネラ・ムーティの繊細な美しさ、子どもたちの素人とは思えない名演技は絶賛された。ルカ・ピガッツィの叙情的な撮影、パティスタ・レナの情感のある音楽も素晴らしい。なお、教会を視察する大臣を、パオロ・タヴィアーニ監督が演じている。

近 日  
ロ ー ド シ ョ ー

12/7 ~

梅田スカイビル(空中庭園)タワーイースト4F  
梅田ガーデンシネマ  
TEL 06 (6440) 5977